

## 2026 セキスイハイム杯兼テレビ信州旗争奪学童軟式野球大会 大会規定

- ◎ 試合規則 公認野球規則ならびに松本市少年軟式野球連盟試合規定と大会規定で行う。
- 試合回数 6 イニング
- 試合時間 1 時間 20 分を超えて新しいイニングには入らない。  
ただし、天候、日没等により試合時間を短縮することもある。  
また 1 時間 40 分を超えても試合が終了しない場合は時間で終了する場合もある。
- コールドゲーム 1・2 回戦：4 回 10 点差コールド  
全試合：5 回以降 7 点差コールド
- 両翼 両翼は、60 m とする。ただし、試合会場の形状により変更もある。  
信州グリーンローズスタジアム四賀（松本市四賀球場）はフェンスを設置とする。  
セキスイハイム松本スタジアム（松本市野球場）はフリーとする。
- 試合成立 降雨、雷鳴、日没等の天候状態も含め、5 回成立以降に適用する。  
雷雨等で試合が途中延期となった場合は、継続試合とする。
- 雷鳴の対応 雷鳴が聞こえた場合は、即試合を中断し安全な場所に避難し待機する。  
会場責任、審判団にて、試合中断、続行、中止について判断をする。
- 投球数制限 1 人の投手は 1 日 70 球以内、1 週間 210 球以内  
4 年生は 1 日 60 球以内、1 週間 180 球以内とする。  
試合中規程投球数に達した場合、その打者が打撃を完了するまで投球できる。  
肘・肩の障害防止を考慮した選手起用を指導者に課すこととする。
- 申告敬遠 守備側のチームの監督が敬遠の意思を申告すると、投手が投球せずに打者は四球とする。該当打者に投球中でも申告した時点で、四球とする。
- タイブレーク方式（特別延長戦）  
試合終了時に同点の場合は、特別延長戦で勝敗を決する。  
継続打順で、前回の最終打者を一塁走者とし、その前の打者を二塁走者とする。  
すなわち、0 アウト一塁二塁の状態にして 1 イニング行い、得点の多いチームを勝ちとする。勝敗が決しない場合は、更に継続打順でもう 1 回行う。  
それでも決着がつかない場合は、抽選にて決定する。  
なお、通常の延長戦と同様規則によって認められる選手の交代は許される。
- 投手プレート 5 年生女子選手と 4 年生は、14 m プレートを使用可とする。
- ベンチ 原則として若番号チームが 1 塁側。但し、勝利チームが引き続き試合を行う場合には対戦相手は空いたベンチに入ることとする。  
従って若番号チームが 3 塁側ベンチへ入る場合もある。
- 先攻後攻 1 回戦は、若番号チームが先攻とする。  
2 回戦以後は主将によるジャンケンで決定する。
- シートノック 5 分間のシートノックを行う。  
ただし、各チーム最初の試合前とし、2 試合目になる場合は行わない。  
**セキスイハイム松本スタジアム 1 日目のみ第 2 試合以降は行わない。**

## 2026 セキスイハイム杯兼テレビ信州旗争奪学童軟式野球大会 大会規定

- 指導者 監督は30番、コーチは29番から26番までとする。
- 選手 背番号が付いている選手が試合に出場できる。
- ベンチ入り 選手、大人は指導者3名、チーム代表者、スコアラーの計5名とする。  
特例＝ 選手の健康管理のために母親のベンチ入りを認める。  
セキスイハイム松本スタジアム、ローズスタジアム四賀 : 母親3名  
セキスイハイム松本スタジアム、ローズスタジアム四賀以外: 母親2名
- 選手名簿 セキスイハイム松本スタジアム、ローズスタジアム四賀で試合  
野球場用選手名簿4部(最終日は5部)  
チーム全員の選手名簿には、先発選手9名と名簿に「○」を記入  
セキスイハイム松本スタジアム、ローズスタジアム四賀以外で試合  
選手名簿2部と市販メンバー表2部  
チーム全員の選手名簿を提出することで、選手名簿は先発選手9名に「○」を  
記入し、市販メンバー表は先発選手9名のみを記入(補欠選手欄の記入不要)  
※ チーム全員の選手名簿をあらかじめコピーをして持参(ホームページ掲載の書式)
- 抗議 監督または監督代行者のみとする。  
監督または監督代行者以外がベンチより出ることは許されない。
- 守備タイム 監督やコーチが1試合に投手のもとへ行ける回数は3回以内。特別延長戦は  
1イニングに1回行くことができる。ただし、投手交代の場合は回数に含まない。  
上記は投手のもとに2名以上の野手が行く場合も3回以内とする
- 緊急処置 思わぬアクシデント(死球、走塁時の負傷、守備での負傷)等の場合は緊急処置  
として、臨時代走、臨時打者、臨時守備としての選手を一時交代させることができ  
る。負傷等が治癒した場合には、再び試合に出場することを認める。臨時選手  
を出場させる場合には必ず球審に申し出ること。
- 特別規定 投手の牽制による暴投がボールデットになった場合、投手板を踏んでいたか  
否かに関わらず、一つの進塁とする。  
DH制は適用しない
- 臨時捕手 イニング交代の時に選手の少ないチームは、捕手が用具を装着している間に、  
投手の投球練習の捕手を指導者が勤めることを認めることとする。  
必ず球審の許可を得ること。(あまり好ましいことではありません)
- 給水タイム 試合中の長い守備の場合、審判団、会場責任者の判断で  
給水タイムが必要であれば、タイムを取ることにする。
- その他 監督会議での取り決め事項による。
- 注意事項
  - ・ 相手チームを誹謗するようなヤジは厳に慎むこと。聞くに堪えないヤジについては審判団が  
厳重に注意すること。応援団は自軍の選手についてのみ行うことが望ましい。
  - ・ ベンチに入る指導者の試合中のサングラス使用については原則として禁止する。  
眼病等でやむを得ない場合は、事前に大会本部に申し出の上、許可を得る。
  - ・ メガホンのベンチ持ち込みは、1個のみとし監督・コーチのみ使用可とする。